

# 令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号

202

江戸川区立小松川第二中学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差							
学年	第3学年			学年	第1学年			第2学年			
年度	国語	数学	合計	年度	国語	数学	英語	国語	数学	英語	
令和12年度の目標				令和12年度の目標							
令和11年度の目標				令和11年度の目標							
令和10年度の目標				令和10年度の目標							
令和9年度の目標				令和9年度の目標							
令和8年度の目標	0	0	0	令和8年度の目標	+5.0	+12.0	+15.0	+3.0	+12.0	+15.0	
令和7年度の結果	-5.0	-3.0	-8.0	令和7年度の結果	+2.5	+9.6	+11.3	+0.4	+9.9	+11.0	
令和6年度の結果	-3.0	0	-3.0	令和6年度の結果	-0.9	+4.6	+6.1	-4.0	+6.4	+2.7	
令和5年度の結果	0	+4.0	+4.0	令和5年度の結果							

年度	令和7年度		令和8年度			
内容	成果と課題		目標		目標達成に向けた取組	
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律とチャイム前着席の呼びかけの効果で、多くの授業が落ち着いた雰囲気の中で行えている。</li> <li>各教科でコンテスト(漢字、計算、スペリング)を行い、基礎的な内容の定着を図るとともに、生徒に達成感をもたせることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で発言する生徒が限定的である。また家庭学習の習慣の形成に差がある。</li> </ul>		<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>確かな学力の向上と、学習習慣を形成する。</li> <li>授業規律とチャイム前着席を徹底し、一つの授業を大切にすることで、確かな学力の基盤を作る。</li> <li>東京都全体の平均正答率を上回る。</li> </ul>		<p>目標達成に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集中できる授業環境の構築</li> <li>机間巡視などを通じて個別に声掛けを行う。</li> <li>宿題や課題を提示し、家庭学習を習慣化させる。</li> </ul>	
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律を徹底する。</li> <li>学習習慣を形成する。</li> <li>一つの授業を大切にすること。</li> <li>基礎学力の向上。</li> <li>区調査の正答率において、全国の平均を上回る。</li> </ul>		<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の私語を「0」にする。</li> <li>生徒が主体となり、チャイム前着席を呼びかける。</li> <li>学習習慣の形成に向けて、定期考査期間に「放課後学習教室」を設定する。</li> <li>小テストを定期的に行い、基礎的な知識・技能の定着を目指す。</li> <li>長期休業日明けに定着度テストを実施し、基礎的な知識・技能の定着を目指す。</li> <li>毎回の授業内で、個別の時間を確保し、一人一人の学習に寄り添うことで、学習に対するモチベーションを高める。</li> <li>毎回の授業の中で、対話の時間を作ることで、思考力を育む授業作りを行う。</li> </ul>		<p>目標達成に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の私語を「0」にする。</li> <li>生徒が主体となり、チャイム前着席を呼びかける。</li> <li>学習習慣の形成に向けて、定期考査期間に「放課後学習教室」を設定する。</li> <li>小テストを定期的に行い、基礎的な知識・技能の定着を目指す。</li> <li>長期休業日明けに定着度テストを実施し、基礎的な知識・技能の定着を目指す。</li> <li>毎回の授業内で、個別の時間を確保し、一人一人の学習に寄り添うことで、学習に対するモチベーションを高める。</li> <li>毎回の授業の中で、対話の時間を作ることで、思考力を育む授業作りを行う。</li> </ul>	
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で定期的な小テストを行ったことで、基礎的な内容の定着を図ることができた。</li> <li>各教科でコンテスト(漢字、計算、スペリング)を行い、基礎的な内容の定着を図るとともに、生徒に達成感をもたせることができた。</li> <li>授業の中でペアワークやグループワーク等の対話的な学びの時間を設定することで、多様な考えを交流させることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に授業に参加する生徒が多い一方で、家庭学習の習慣の形成に課題がある。</li> <li>基礎的な知識、技能の定着を図ることができたが、思考力や表現力の向上に課題がある。</li> <li>対話的な学びにおいて、比較的活発に意見を交流する様子が見られるが、発言する生徒がやや限定的であったり、やや規律が乱れてしまったりすることがある。</li> </ul>		<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の習慣を形成する。</li> <li>定期テストや学力調査、授業内での課題等で、思考力や判断力を問う問題の正答率を上げる。</li> <li>授業規律を徹底させる。</li> </ul>		<p>目標達成に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小テストや各コンテスト、定期テスト等の機会を活用し、家庭での学習が進められるように課題を提示する。</li> <li>基礎的な内容の定着が不十分であったり、自ら課題に取り組むことに困難を示したりする生徒には、授業内の個別指導や放課後の機会を活用し、課題の取り組み方の指導を行う。必要があれば補習を実施する。</li> <li>複数の結論や、解決法のある問題を授業で扱い、生徒の思考力や判断力を向上させる。</li> <li>定期テストやコンテスト等の振り返りをし、自分の学びについて批判的に考える習慣を身に付ける。</li> <li>生徒が主体となり、チャイム前着席を呼びかけたり、授業中の私語をしないようきめ細かく指導していく。</li> <li>誤答を恐れたり、自らの発表に自信をもつことができなかつたりすることがないよう、意欲的で親和的な授業の雰囲気づくりに努める。</li> </ul>	
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞のコラムや記事を毎日読むことにより、教科書では得られない知識や語彙力を増やすことができた。</li> <li>各教科で定期的な小テストを行ったことで、基礎的な内容の定着を図ることができた。</li> <li>各教科でコンテスト(漢字、計算、スペリング)を行い、基礎的な内容の定着を図るとともに、生徒に達成感をもたせることができた。</li> <li>授業の中でペアワークやグループワーク等の対話的な学びの時間を設定することで、多様な考えを交流させることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に授業に参加する生徒が多い一方で、家庭学習の習慣の形成に課題がある。</li> <li>基礎的な知識、技能の定着を図ることができたが、思考力や表現力の向上に課題がある。</li> <li>対話的な学びにおいて、比較的活発に意見を交流する様子が見られるが、発言する生徒がやや限定的であったり、やや規律が乱れてしまったりすることがある。</li> </ul>		<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題提出率100%を目指し、家庭での学習習慣も形成する。</li> <li>定期テストや学力調査、授業内での課題等で、思考力や判断力を問う問題の正答率を上げる。</li> <li>それぞれの進路実現に向けて、基礎学力はもちろん応用力を養っていく。</li> </ul>		<p>目標達成に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小テストや各コンテスト、定期テスト等の機会を活用し、家庭での学習が進められるように課題を提示する。</li> <li>基礎的な内容の定着が不十分であったり、自ら課題に取り組むことに困難を示したりする生徒には、授業内の個別指導や放課後の機会を活用し、課題の取り組み方の指導を行う。必要があれば補習を実施する。</li> <li>複数の結論や、解決法のある問題を授業で扱い、生徒の思考力や判断力を向上させる。</li> <li>定期テストやコンテスト等の振り返りをさせ、自分の学びについて批判的に考える習慣を身に付ける。</li> <li>生徒が主体となり、チャイム前着席を呼びかけたり、授業中の私語をしないようきめ細かく指導していく。</li> <li>誤答を恐れたり、自らの発表に自信をもつことができなかつたりすることがないよう、意欲的で親和的な授業の雰囲気づくりに努める。</li> <li>面談などを通じて、課題を提示し、克服できるようにアドバイスする。</li> <li>夏季講習や補習教室、またEDOスタの力を借りて、C/D層へのアプローチを強化する。</li> </ul>	